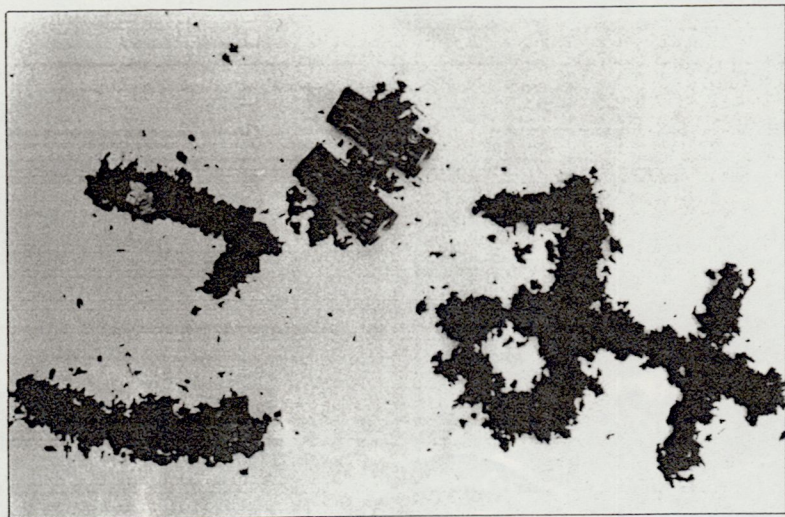


ながぐつ

(無着成恭編)

「山びこ学校」より



こまやのすみこから見つけた

ぼろくそのながぐつだ

ペシャンコにつぶれたながぐつだ

父に聞いたら「十年も前のだなあ」といった

ながぐつ一足千円もするときだ　これで上等

「よし明日からこれをはいて行くぞ」とわくわくしながら

母にモメト（木綿糸）をもらった

白いモメトだった

「なにかまうもんか」と思って　アバグチ（破れた口）を

ブツブツぬいつけた

父も母も見えていた　だまって見ていた

「三月の雪みちを　わらのでっしりいれた　このながぐつで

けちらして行くぞ」と思いながら

ひとはりひとはりぬいつづけた

これは、昭和二十四年に書かれた中学生の詩です。

当時と現在とでは、ものの豊かさには格段の相違があり、一概に

比較することはできませんが、この詩の心は、いつまでも、どのよ

うな時代であっても、持ち続ける必要があるのではないのでしょうか。

ものを大切にすること、ものを大切にする心を持つ。そんなあたりまえの事からも、ごみは減らすことができるのです。

ごみの山。

ものを大切に使わないで、なんでもかんでもごみとして捨てていたらこんな高い山になってしまった。……

こんなことは、こんな景観は、想像もしたくないですね。



ごみは増えているのでしょうか。
市全体のごみ量は、確実に増えています。

人口が増える以上にごみが増えています。

福生市政世論調査でも、市民の多くの方が、ごみは増えていると答えています。

生活していくにしよう、ごみが出るのは仕方が無いことです。

人口が増えれば、それに伴ってごみも増えるのは仕方が無いことです。

しかし、仕方が無いからと言って
いるだけでは、いつの日か、福生市
はごみの中に埋もれてしまいます。

ごみ戦争は、まだ終わっていません。
私たちが生活していくうえで、さ

けて通れない、闘い続けねばならな
いのが、ごみ戦争なのです。

処理能力に限りがあり、埋立地に
限度がある現在、ごみ戦争の最前線
は、みなさんの家庭にあります。

いま、私たちにもとめられている
ことは、ものを大切にしてごみを減
らす工夫、ごみを出さない工夫なの
ではないでしょうか。

市民1人が1日に出すごみの量を
都下26市で比較してみると、福生市
は、ごみ量の多さで常に上位にあり
ます。

